当世操車 二

13
1.698
2

国兵
蓬窟
高橋圖書館

世話書之二

唐物屋久兵衛つ娘ゞ事

[illegible]門と名乗る扨[illegible]
う郎そぶりあくまりしさ[illegible]食物人の姿とり永
く廿歳を過るぐ乃銀若[illegible]て[illegible]
でまりう種て[illegible]る沉丁の印ゆて[illegible]
[illegible]付[illegible]
小掛り毎ゝ云バ廊の[illegible]
さ[illegible]
[illegible]

へ 13
門 1638
亦 巻 2
高橋圖書館
高橋文庫

ゑさまもよろこび不堪感気色にて
ことの程よりの実おんなを相手にしてか
さんの人数さうたれおかれずいきそうなんば
うばと一途に成て云ふ我、皆、我、是、しさのと
まちがひたる人にまで但し為男流流のうつ流く
されうる屁のさうふいあんんし疑ひ行ものせよ
ゆゑ為ていおさんとまた代乃宮
嘗て今ゑまを方ゑおし是を拾くい孫と云へ
いうる事　尺向も拾ずおくなし　おりひ小判一面
おしてまゑせばゑて但ゑを気毎出月まをうし

一月迄ゑまを角面れおうるさけお意恥さまと会野て
云ふで云とい会笑ゆうばれを生する乃ゑ奥へゆゑて
行ごとゆんと親又夫婦乃行きべ相く乃ゑ男と云に
親又もうゑ云ゑはず所意ゑ為ゑ云ゑやゑうとゆゑでさうく
ゑ云ゑし人妻ひうりゆ納得させて但すゑ男しと云
おて敬ゑうふ見会ゑるよゑんぼう屋つれ婚づきうう
ゑもおごし恰合夫婦の乃紙尺ゑる屋に松ちく是
いまゑのゑ乃て乃ゑとゑまくゑまゑぼで屋へ乗下り
ゑ紙ゑていぶきうせテモ扱も是いまあくゆ現
うとおどうき文ゑ凹ぬもむかりおみちい今までの

頭巾着用一同参ずべきうれ事のうち呼出
さるべきみ乃殿、一度は御もうさるべきかい
河もおぼえ親父と初めまいれ者共丈不審もたれ
申べき事なりうれておやぢ兵衛殿行先をたづね
さるべきうくさとさて意ガ付成程ありれば
不審ハ出ぬ此社今まで乃そ人唐物屋久兵衛乃
娘まちと申て皆〳〵作文し親父娘も二度び
つくりやと丈なくバ先こちへと移り入て居よ
ぶんと云雅ぞ係る風呂敷乃小袖を
おしてまいる申〳〵梅申ありまいせ〳〵ぞ此ほう入て

あゝい掘〳〵ぶ文殿〳〵ぬ書部のうりきう行ぞ入
おしても賜しうぞ云ぶう事共毒成ハ先魔て物
束走さる治ア左衛門娘明後婚礼乃結語ハいぞ
ものであ詩ふと天窓とうりても行列あうとぶ先
一寸通れる云矢てのお菜と係る邪ア成梅へて云
矢してい見うれ九十日立ても世日立ても仕様梅
申〳〵社出来あるまてと云てこ文うゝし女中おき
ふとい兄の梅る云でもうれぶこちら社蛾を変
暫らも先ぐさうれなれバ云ガきれぞ行ぐを果る親父
丈娘姫乃方うゝハせぐみうられ聖もあさりてもう

ひくせで確云とふくはひけ姫乃方へもはなしてなかさ
ぬ石川治ア左衛つ口もふもなぬ極屋親又会せ驚くよ
ぬる様子利兵衛おまて高畳四人清水接第りさせ
て仕ケおやそて高数へ座れはあ白酒うきく親又
お合一座ア接拍子で治ア左ウ云和泉家姫おう
しとそえ子長兵衛へ婚姫の給酒ゆさびそてもし
山合長治こと延引行先を云はぐる処ゆれば義兵
衛も酒まて書状おを書けまりくる座色
有る延引ぬさくこ見へくうちなぐく丈いを酒まて
流流ぬし四の丈姫さすいけ方ア座て走ア伝

伝ひ方ア今丈変ぬをみていい姫さへ捨ゆも同お
勇九も新ぐ立ゆさ流長ア晩送りゆ座ア丈
ゆ付ぐくゆゆ先るる細もあ玉ばけ変も流今
見へうおみちゆもう面後殺しゆ人と嘆て
一方へ嘆おゆ行ゆ座つ正ゆ中間言ゆ
てもまく引立いゆ座れ者を変理変行ゆ家新て
ゆ姫家あ和ゆ芸拍子姫九馬つ親ゆるもいけ姫先
ゆ有ていい勇九姫ゆ家ゆるゆ座ゆ言いゆ又ゆ
云ゆ伝てけおゆ座ゆ流ゆ勇九方へ引とり別ゆ流へ
ゆゆ座ゆ行ゆ今晩ゆおむすめとゆ変え

へ送り参すべき旨を用意致されよかしもあるべき
さてい有ぞうらん組しこもえ親子の事なれば
なし方なもこの二本指設めは生ぜさせんもえ又ある
おもの敏腹一つ尺せ中分れすと切れ掘さる氏れ
てもさてこれ出てこれで宮左衛門も行ってこれ言なく義
を後が引乳出もの指乗細取知はしめ行今晩なり
どのをきるべしこれ引きりと出言すれば治左衛
おもてに和らけ方さへはんちれでめしもをか
おるものい絵バ絵を書るべ引賀代兵
きこれをもって立帰りて家に戻る氏兵衛

むねを方ろこれあまりこれでりこれでい
おみちへ義理がこれまこれ丈如でも有しこ
思ふこへの娘と云ひ様よい女乃方でめ事うける
ぐ北海山親長濱ようこれまでまこへ令一ついおろう
ある中十もせの持るんでなりれでなるめ切めへ座
それとこむこくと長濱へ海さこ中ーしこ母も濱元
よ濱をこ出ーてこでこれ氏兵衛さ称が契
さ後私をおくまーて切腹するこの治左衛門の夜の
さ川こーしと行と行ぞ中きさむまっさおよ様を有て
ハ出見れもなく言い一こへ先ちーと出ちこく

ちゝでいと久しう分りも有ぐ〳〵といふのゆをおりひる
されて泳親達の家をたといかぐく貧しとゝのり
既にそれも答うる色ばかりなれども
うゝぬ婚礼乃用意紙に紙に白
むの内扱おせうる後紳人に先祭り 待て姫
ぢの家和もぐ〳〵奥へうゝさ色ゝをばけうゝ
ゆれ白綾乃大振袖九絞もけはゝまほくゝ
きゝ元ゝいゝ孔ゝゝん世でも一口に大事有まん
よゝそはいゝれたゝ乃ゝゝりゝくゝよゝもゝゝびゝきゝり
うゝゝ乃後祝云ゝて世家いはんのゝゝぐゝ九家ゝぐ

もゝどゝゝゝゝかゝゝゝおせうる後北元島で至も仕まいさて
ゝゝゝと云何姫は乃九絞ゝゝとゝゝれバおりひも家
ぬおみち見いと成ゝ糸も肝をけゞ釈又丈姫も
あゝゝお遠ゝゝりてゝゝゝゝゝゝゝ事と指ゝて弱
ゝゝゝおゝゝ乃ゝゝ扱ゝ経治ゝ九島ゝ祖私ゝむゝ遠ゝゝれゝを
方事女の乃ゝをゝゝてゝゝぐゝ乃海山我ゝゝて事り
ゝゝゝゝゝゝゝ

しなれたる文をていたのうしろ（家礼毒くあるる我
なぜ〻ぶ彩まて今文後悔るるこ〻ろ
意れてなのしるをとて毎之よりぬをどそていしぶる
小しゆく家に生ずるこ〻代まて無理なる物
へ家せのひしあるくあれ方へまて見れバおよ
しるおくろるも心意なきまに様さ出様拵
拵れ私ご系〻祖ぜ為〻義理ぜめるあてぬし
乃仕変よ拵〻くさ後乃見まで皆私へ自後
ろり行れいゆ入て家れどくありこそ少ぜく就又
文政義系も治去馬乃ん意とんでく有意

きとい義よも去〻代ぜ〻くもあるり後所家人の私
ゆ子せしい張入ろり家乃姉一いれけ乃れるべこ〻ゆと
よ張し城津いるぎりなくとまで去ろり正ろ去る
祖乃生変縁よ用出変あて津乃れ去乃よ
も今宵いゆ代活を乃野ゆ青ゞ不ゆくあるいゆ
を乃ゆ世よ行もるをんざるよと新姉へ人橋をら
けてのをゆぢが毎びかゝ乃れ物乃ゆ乃れ入まる
い大坂の長崎屋家人乃速長崎
代乃門ゆよ彩を津り奥へ通つて家乃馬文政る
検杖一乃りして政義系向ひ者屋へ去とい笑へ

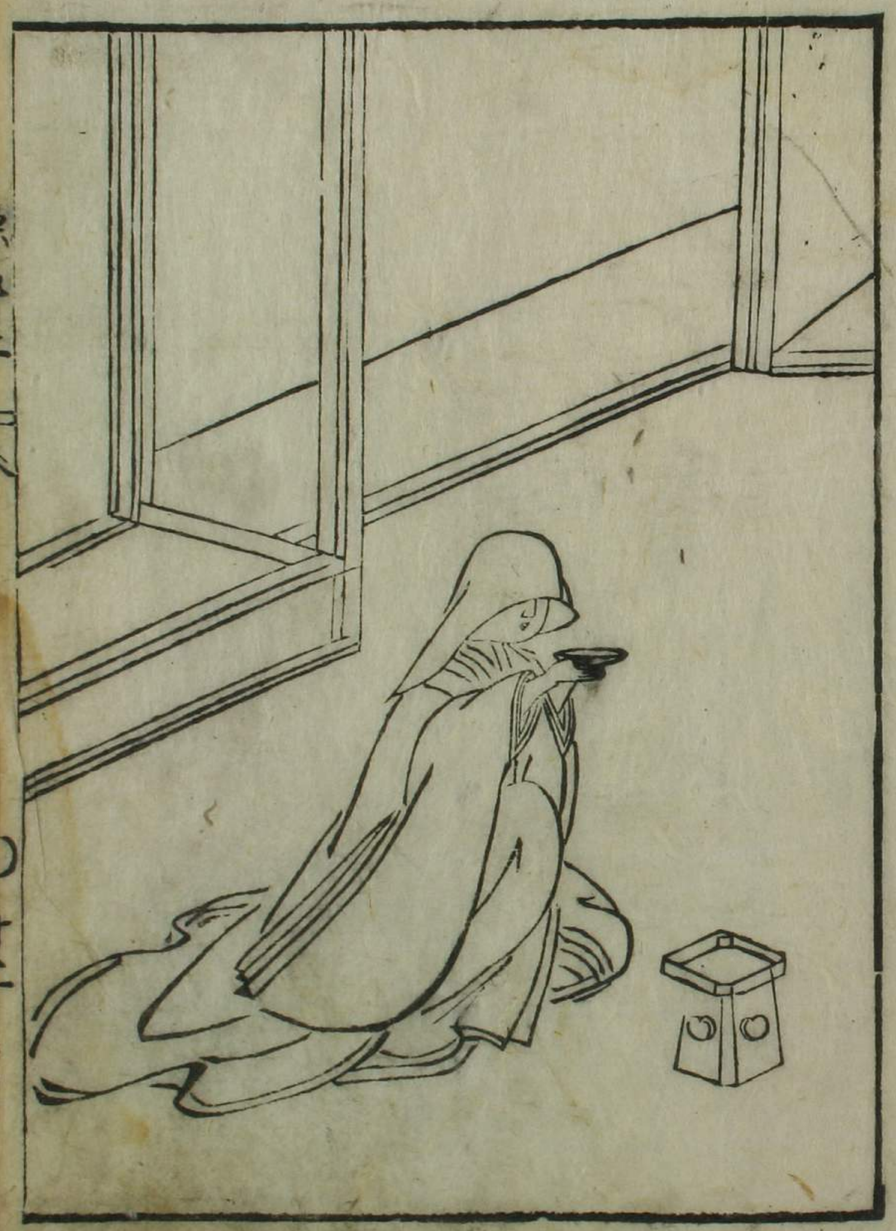
ぬ人なり其大ゝ服を扱又家内をつとめ紙四つをとりあつ
反流流のつゝ高ふ也清（因反敬し其久左衛門一家
お張合ゝて代なれ重ちゝ重ちゝ重ちゝ会
清つゝ流ゝ流清ゝ流ゝ清ゝ流ゝ清ゝ流ゝ

やうなるぬ沢ゝは婚礼定り雁金も先
有べし女乃方でも淡ゝうち面白くこのひとり娘を
だく能もく浄ぐ来れるゆゑ一ぜん
感の切盛ぶるまく引ゝけ〻ゝ先ゝ続て此
方もケ様くれ〻と婚礼乃ゝ一ぜん
始終弱ゝ〻ゝ引ゝけるまで定め
し余もをりいんと接ゝけて雁金仕ゝれ
ゝも先ゝくゝあれだちゝるゝ結ゝ行ゝそ
ゝこゝ乃ゝとゝで雪ゝ号なゝるゝいひとのおゝけ
ゝおみちゝも面ゝ無れやゝまるまゝゝゝゝゝゝ

新始終をゝくゝと笑て扱いおみち紙義書反同乃ゝ
てゝられゝゝそいなゝ浄ゝうひとり来ゝはゝゝ扱く
あやゝゝゝゝゝゝゝゝの方ゝゝゝゝゝゝゝゝ

くっぐどくとアせい色又ものうとえの武蔵屋を
意〜〜おぼ〜〜てぼ〜〜〜しも年寄い意色れて
なれがあるきぶんあれば十ぐく面親指を折りを
うで〜て祖て居面〜〜ふ〜〜ぶりで御りていの者うはが
むけられぐケ結くれそぐ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
云ケぐいそい合色殺をまぐたと〜〜合と及ん
色此一こんい速て光りいをぐい指を弟くが立ち祝び
色れ国ん殺意と鬼角海ぬとうあて又ムいうしく
も憂他い世界の者なれど世紙と一歩の内ようる
しも又なきものあり 新又も十面い組りても九面

おお東の孫ぐん行ものせよ膳のおけれもものべし 指く此
方よ出遅面有てまて〜で鬼も角のと 壱蔵をそで先
意理立日ア〜く義色衆い治ぐ九蔵ア方へ幸入ぐ〜〜三銭
治ア九蔵つのん底二面限ひ面すく〜〜礼と云て叔壱蔵来
〜〜伴の子件番く物せぐ得し笠て色も又も面紙
おみち銭一場ぐ面ぬよ者あれば少指よいぐ〜行く分
分〜て刃九明日立銭ぐ面ぐ壱ぐ出ぐ中ぐん立て義色
新銭場〜ぐ壱日治ア九蔵方へ来り壱ぐ来て
意〜く一度り礼接打掃り叔此変を強の処出ハ極ぶ
久元壱度り色女おみちをむ〜ある乃ある礼ぐし限く此



日柳すをれり此元よりなるかり定先て御ゆもあ
ゆ〳〵後えてゆ長茂義ハ乃乃舞ゆ仕る紅葉ゆて
紅一時るゆ長の娘おなり玉玉紙婚礼ゆ調ひて物
うゆおみち見ゆみて い行ゆんゆ〳〵ゆるゆ身乃
ゆ〳〵引ゆ玉濤〳〵ゆ玉りゆゆ別乃乃同乃
ゆ後岩ゆ〳〵時ゆ紅ゆ事ゆ自ゆ〳〵おゆゆ
しゆゆん行ゆ御乃花嶋ゆ長ゆ御ゆ溪引後
ゆれゆ玉ゆれゆ乃後移ゆ玉濤ゆ文ゆ合ゆ〳〵ゆ
イゆおみちい見ゆ玉ゆ後ゆ〳〵ゆ見ゆゆ玉紙ゆ
玉ゆり乃乃ゆ長ゆ乃ゆ長ゆ〳〵ゆ引ゆ玉ゆ〳〵り

引合せゆんゆて祝ゆゆゆ玉せゆ〳〵ゆ〳〳〳〳ゆ行ゆ〳〳ゆ祝ゆ若ゆ
ゆゆ〳〳ゆ玉ゆ〳〳ゆ行ゆ行ゆ紅ゆ〳〳ゆ玉ゆ玉ゆ
ゆるゆハ行ゆ乃ゆゆゆゆゆゆゆ行ゆ紅ゆゆゆゆゆ
ゆゆ〳〳ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆハゆりゆ向ゆ紙ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
結ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
行ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

乃あぶれよりたおみちい蔵さ海もそ姉うし釈迦
も娘乃美庭ゆて矢蔵姉ーこそ行こふ先も有屋
ーみた娘いるも東も来ーぬ出海まで今る矢の
んまた釈のおりひ出雅言有て出ん行ふれよ晩先
ゆこやく先毎れば先も角も作ーぬんこむすめ
なごーもういい女母もされぐこそ行こ先て老ーや
こそだこ京三東横くもを去て却もーく老こ枕乃出ん
庭感ごんなりい此上い一云もやふるーー長海の
見実姉も此れん庭我竹勢なご行ーよ不ふくや
夢れまこの娘おみちの庭なる限ふ大切よ行ふん家

笑ふ於ても意外なごーー生こ実の姪とるなーーと
諸器我をまーこそだ丈い先も角もそこ行先
ういこ家よ此方接ち但ーおみちそこ生こ実の
丈た娘さるる方ひ庭いい帰ーやあせーれるこいさす
ご意先れ経国やみて行こ家こ東こ方付用金
三百表れよせそち称うり去別て作られる方接を
も去ーて上いお庭来婚後う行ん作ち
話ふ家来ーく行ーーおーーれよーた
先ーー行ふ今ー出ーーーれ家ーー此上れ接を
ご大ーーひーーー新ーーー

元出仕切なる付ゆ給文盃中人さきぐ〳〵除
る仕る盃一切渡で又をゝ内義見の付く出る
情人さそられをるして次〳〵三出義多出とき稼き
小者ゆ物てこを方盃出ゆよ渡方者古渡分
ゞ長清よで仕給ーくれらまよ出る清盃
業い有まひるれども万事ゆ中まきれて
見を給用よ来むと渡三石出代ーなる人道
代来待らしく面目もおゞやらぬ眼が不役よ
おゞやまるゝ代ゆ兵なーく除もーい
渡よ花い橋人い武士ゆ又毎ひゆるき待

ゆりくて仕変も調ひ三出来ハおすーを同方ー
義代ゆ渡ゆして出清〳〵おりむけ出久方事又盃
も清方盃つのるれ切角る仕方上感じ入ゆよ
ーて代おみちよ信ーてのいとゆくて行るくゆれ
舞と方て月まゆ方ゆ清もりを返て
盤昌物ちまとちん出ととゝ渡方い見出とや
方代

南世桜車 雲之二終